

歴史に深く学び、つよく大きな党を——『日本共産党の百年』を語る

——党創立101周年記念講演（レジメ）

日本共産党幹部会委員長 志位 和夫

生きた攻防と成長のプロセス——「たたかひの弁証法」を明らかに

一、戦前の不屈の活動——迫害や弾圧に抗しての、成長と発展のための努力

党創立と初期の活動（一九二二～二七年）

・「綱領草案」——掲げた項目のほとんどは戦後、日本国憲法のもとで実現した

・二三年の弾圧、党再建と本格的な前進、「無産者新聞」の輝かしい歴史

「ここに日本共産党あり」の旗を掲げて（一九二七～三五）

・「二七年テーゼ」、「赤旗」の発刊、二八年二月の総選挙のたたかひ

・二八年、二九年の大弾圧、党中央の再建と侵略戦争反対のたたかひ

・「三二年テーゼ」、コミンテルンと日本共産党の関係について

・二度の大弾圧をへた三〇年代初頭の時期に、日本共産党の影響力は戦前で最大に

・日本共産党に参加した女性たちの不屈の青春——飯島喜美のたたかひにふれて

次の時代を準備する不屈のたたかひ（一九三五～四五年）

・残虐さを増した弾圧——党の闘いは不屈に続けられた

・宮本顕治・宮本百合子の「十二年」と、敗戦直後の『歌声よ、おこれ』の呼びかけ

二、戦後の十数年——「大きな悲劇を未来への光ある序曲に転じ」た開拓と苦闘

敗戦後、党が果たした積極的役割と弱点について

・日本国憲法に「国民主権」を明記し、「日本の完全な独立」の旗を敢然と掲げる

・占領軍による日本共産党撃滅作戦と、当時の党が抱えていた弱点

スターリンによる無法な干渉と「五〇年問題」

・マッカーサーの弾圧を利用し、党の分裂を強行する一大暴挙が行われた

・スターリンの干渉の真の狙いはどこにあったか——『百年』史の新しい記述

「六全協」から第七回大会、第八回大会まで——苦闘をへてつかんだ未来ある路線

・惨憺たる現実から出発して未来ある進路を見つけた、文字通りの開拓の時期

・「党史上のきわめて重要な時期」——危機と混沌から未来ある路線が

・六一年綱領確立へ——徹底した民主的討論、歴史的闘争、党勢倍加をへて

三、綱領路線の確立以後（一）——一九六〇〜七〇年代

綱領路線にもとづく各分野での開拓的な努力

- ・革新勢力の共同行動と革新都政の誕生、政策活動と住民運動の発展
- ・ソ連核実験に対する対応の誤りと、「核抑止力」論批判に至る過程を明らかに
- 二つの覇権主義による干渉——「打ち破っただけでなく、より強くなって現れた」
- ・イタリア有力紙の記者時代に各国共産党を担当したジャーナリストの評価
- ・無法な干渉とたたかい、自らを鍛え、成長させていった「たたかいの弁証法」

日本共産党の「第一の躍進」と反共戦略とのたたかい

- ・日本共産党の大躍進は、日本の政界を一変させた
- ・一大反共作戦と、それを打ち破り、成長・発展をかちとった全党の奮闘

四、綱領路線の確立以後（二）——一九八〇〜九〇年代

第一の試練——日本共産党をのぞく「オール与党」体制とのたたかい

- ・「無党派の人々との共同」——革新懇運動の四二年間のかけがえない役割
- ・新自由主義、軍事同盟強化、消費税導入——「地殻変動」かといわれた一大激動が

第二の試練——東欧・ソ連崩壊を利用した「社会主義崩壊」論とのたたかい

- ・第一九回大会、第二〇回大会での旧ソ連社会論の解明
- ・ソ連共産党解体を歓迎し、未来への大局的展望を語った、世界で唯一の党

第三の試練——「自民か、非自民か」の反共作戦と、日本共産党の「第二の躍進」

- ・「非自民政権」から「自社と政権」へ——バブル経済破綻の矛盾が噴き出す
- ・三つの試練を乗り越えてかちとった「第二の躍進」——党建設での反省点も

五、綱領路線の確立以後（三）——二〇〇〇年代〜今日

「試練の二二年間」に全党がとりくんだ成長と発展のための努力

- ・全党の英知を総結集し、党綱領と規約を二一世紀にふさわしい内容へと改定した
- ・「国民の苦難軽減」という立党の精神に立った取り組みをうまずたゆまず進める
- ・自公政治に代わる新しい政治を国民とともに探求する、という姿勢で奮闘する
- ・新しい方針のもと、野党外交の本格的発展にとりくむ
- ・国政選挙のたびごとに、内外の声に学んで掘り下げた総括を行い、改革の努力を続けた

日本共産党の「第三の躍進」と、「共闘の八年間」

- ・「第三の躍進」——「試練の二二年間」に全党がおこなった不屈の奮闘の結果
- ・「共闘の八年間」を踏まえて三つの点を訴える

むすび——新たな百年のスタートの年にあなたも日本共産党に